

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：32406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00109

研究課題名(和文) 西田倫理学と古典儒教：人格実現説の形成と意義の再検討

研究課題名(英文) Nishida's ethics and Classical Confucianism: Revisiting the formation and meaningfulness of actualization of personality

研究代表者

ラム ウィンカン(林永強)(Lam, Wing Keung)

獨協大学・国際教養学部・教授

研究者番号：90636573

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は古典儒学との交差という視点から、西田倫理学における人格実現説を見直すとする。以下は主な成果である。一、西田倫理学においては、多く触れていた誠、中庸、知情意などの概念を整理し、人格実現説との関係を再吟味した。二、2015年より発見された未公開資料を使用し、倫理学に関する西田の講義ノードを含め、西田倫理学研究の新局面を開拓しようとした。三、西田倫理学と古典儒教との関係を明らかにした上、倫理学、特に道德感情論との接点に注目し、倫理学そのものへの意義を掘り出しそうとした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一、これまで注目されていなかった西田倫理学、特に古典儒教との関係を明らかにした。二、『西田幾多郎全集』の諸版のみならず、2015年より発見された「未公開資料」も使用し、西田倫理学の新地平を開こうとした。三、西田倫理学と古典儒教との交差により、倫理学そのもの、特に道德感情論という側面からみた意義も開示した。

研究成果の概要(英文)：This project aims at revisiting Nishida Kitaro's notion, actualization of personality, through its interchange with Classical Confucianism. The achievements are as follows: firstly, concepts like sincerity, the mean, knowledge, feeling and volition, which are widely used in Nishida ethics have been extensively examined. Secondly, by using of undisclosed materials which were found in 2015, a new horizon of Nishida ethics has been developed. Thirdly, regarding the interconnection between Nishida ethics and Classical Confucianism, especially its relationship with moral sentimentalism, the meaningfulness of Nishida ethics has been further uncovered.

研究分野：日本哲学

キーワード：西田哲学 中国哲学 日本哲学 古典儒教 倫理学 道德感情論

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究はこれまで注目されていなかった西田倫理学、特に古典儒学との関係に対するものである。膨大な西田研究に対して、倫理学への関心はあまり重視されていない。また、西田倫理学においては、誠、中庸、知情意などの概念を多く論じられ、人格実現説を展開している。それはいうまでもなく古典儒学からの影響が大きい。その上、2015年に発見された未公開資料があり、倫理学に関する西田の講義ノードを含め、西田倫理学研究の新局面に迎えているとも言えよう。そのような背景に対して、本研究は全集の諸版から、未公開資料まで、西田倫理学と古典儒学との交錯を焦点とし、西田倫理学の意義を開示する。

2. 研究の目的

一、古典儒教という視座から西田倫理学、特に人格実現説の形成と意義を再検討する。今まで西田哲学の研究は、宋学（特に陽明学）や新儒家（特に牟宗三）との比較に注目してきたが、古典儒教との交錯は殆ど触れていない。本研究は西田がしばしば言及した古典儒教の言説に沿い、人格実現説を再考する。

二、2015年より「西田幾多郎未公開ノート類」を整理し始め、新史料として西田研究に新たな段階を迎えた。そのなかに、倫理学のノート類も多く、人格実現説の形成と意義に関する研究は、再構築の境地に入った。そこから古典儒教との関係を再吟味し、新たな西田倫理学像を樹立することを目的とする。

三、本研究は、今までの西洋倫理学の諸説と異なり、古典儒教という視座から、西田の人格実現説に新たな意義を見出そうとする。それと同時に、西田の解釈を通して、古典儒教の倫理学を変容させることができると考えている。そこから倫理学そのものへの創造的意義をも掘り出していく。

3. 研究の方法

一、古典儒教という視点から、西田の人格実現説を再考する。西田は至誠、知、情、意などの古典儒教の論述を言及しながら、どのような原典を参考したのか。例えば、誠という概念は、その由来は『中庸』でもあり、『孟子』などの典籍のなかにもよく論じられている。それに関しては、西田の蔵書、読書歴、著作に基づき、文献的に精査する一方、儒教の原典を綿密に調査・分析する。西田倫理学と古典儒教との関係を明確にすることにより、人格実現説の形成や意義を新しい見解も見出す。

二、「西田幾多郎未公開ノート類」という新しい一次文献を使用し、西田倫理学研究の新境地を開きたい。今までの西田幾多郎全集と異なり、一級史料としての未公開ノート類、特に倫理学講義ノートなどを通して、西田の人格実現説の形成と意義を再吟味したい。また、そのなかで、様々な古典儒教との関係をも明らかにする。

三、西田倫理学と古典儒教との交差により、西田の倫理学のみならず、古典儒教の倫理学、さらに倫理学そのものへ意義をも探求することでもある。そこから、倫理学的新論理創出の可能性を開示する。

4. 研究成果

一、書籍

- 藤田正勝、林永強編著『近代日本哲学と東アジア』臺大出版中心、2019年。
- 浅見洋等編『西田幾多郎未公開ノート類研究資料化 報告3～7』前田印刷、2019～2024年。
- 浅見洋編『西田幾多郎全集 別巻』岩波書店、2020年。
- 志野好伸等著『何処から何処へー現象学の異境的展開』知泉書館、2021年。
- Kido, Atsushi, Noe Keiichi, Lam, Wing Keung. eds. *Tetsugaku Companion to Feeling*. Dordrecht: Springer, 2024.

二、分担執筆

- 林永強「新儒家としての西田幾多郎：人格実現説をめぐって」廖欽彬、伊東貴之、河合一樹、山村獎編著『東アジア哲学の生成と展開—間文化の視点から』法政大学出版局、2022年、523頁～543頁。
- Lam, Wing Keung. “Nishida Kitarō and Virtue Ethics: With a Focus on Zen no Kenkyu”. Matsumaru, Hisao, Arisaka Yoko and Lucy Cristina Schultz. eds. *Tetsugaku Companion to Nishida Kitarō*. Dordrecht: Springer, 2022, pp. 207-218.

三、論文

- Lam, Wing Keung. “Bodily Pathos and Virtue Ethics: On Miki Kiyoshi’s Philosophy of Imagination”. *The Journal of East Asian Philosophy*. Vol. 1, Issue 1-2, 2021, pp. 31-42.
- Lam, Wing Keung. “Reading Nishida Kitarō as a New Confucian: With a Focus on His Early Moral Philosophy”. *Asian Philosophy*. Vol. 33, Issue 1, 2023, pp. 15-28.
- 林永強「物語ることと聞くことのはざままで：感じ取ることについての試論」『求真』第28号、2023年、93～105頁。

四、学会発表、講演

- “Nishida Kitarō as a New Confucian”. International Conference on “A New Horizon in Peoples, Cultures, Thought, the Sea and Economies.” The Institute of East Asian Humanities and Social Sciences, Chinese Culture University, Taiwan, 4-5 October 2019.
- “Nishida Kitarō as a Classical Confucian Moral Philosopher: Reconfiguring “the Actualization of Personality””. International Society of East Asian Philosophy, 2019 Conference, Meiji University, 14-15 December 2019.
- Rereading Nishida Kitarō as a New Confucian: With a Focus on His Early Moral Philosophy”. 「東アジアにおける哲学の生成と発展—間文化の視点から」第六回共同研究会、国際日本文化研究センター、2021年2月6～7日（ウェビナー）。
- “Nishida Kitarō’s Ethics and Classical Confucianism: With a Focus on the Book of Odes.” The 5th Annual Meeting of International Association of Japanese Philosophy. Nanzenji and Kyoto University, 13-15 March 2021 (Webinar).
- Lam, Wing Keung. “Feeling of Happiness and Moral Sentimentalism: On Nishida Kitarō’s Energetism”. International Conference on Emotion and Feeling in Japanese Philosophy. Department of Philosophy, Tohoku University, 24-25 April 2021. (Webinar)
- Lam, Wing Keung. “Nishida Kitarō and Shaftesbury: An Encounter of Moral Sentimentalism”. The 6th Conference of European Network of Japanese Philosophy. Faculty of Humanities, Eötvös Loránd University (ELTE), Hungary, 1-4 February 2022. (Webinar)
- Lam, Wing Keung. “The Feeling of Happiness, Moral Sentimentalism and Knowing-to: On Nishida Kitarō’s Energetism”. Department of Culture, Fukuoka University, 18th December 2022.
- Lam, Wing Keung. “From Knowing-to to Feeling-to: On Nishida Kitarō’s Moral Philosophy”. International Mini-Workshop in Philosophy. Department of Philosophy, Soochow University, 27-28 April 2023.
- Lam, Wing Keung. “Harmony of Feelings: On Nishida Kitarō’s Feeling-to Approach to the Good”. International Society of East Asian Philosophy, 2023 Conference. School of Philosophy, Psychology and Language Sciences, The University of Edinburgh, 15-16 September 2023.
- Lam, Wing Keung. “Why Japanese Philosophy Today?” Workshop on East Asian Philosophies Today. School of Philosophy, Psychology and Language Sciences, The University of Edinburgh, 18 September 2023.
- Lam, Wing Keung. “The Feeling of Congruence: From Shaftesbury to Nishida Kitarō.” Practical Philosophy across East Asian Traditions. Department of Philosophy, National Chengchi University, 6-7 October 2023.
- Lam, Wing Keung. “From Feelings to Norms: A Nishidaian Approach”. International Symposium “Social Norm, Sentiment and Ethics in Japanese Philosophy from the International Perspectives”. Department of Philosophy, National Taiwan University, 5 November 2023.
- 林永強「美德倫理學：從西田幾多郎的觀點看」東吳大學哲學系、2023年12月20日。
- 林永強「西田幾多郎、儒學與道德情感：情動倫理學的可能性」中央研究院中國文哲研究所、2024年2月1日。
- 林永強「西田幾多郎の理性與倫理」「現代日本與傳統：由哲學的省思」工作坊、國立臺灣大學哲學系、2024年3月16日。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Lam Wing Keung	4. 巻 33
2. 論文標題 Reading Nishida Kitaro as a New Confucian: With a Focus on His Early Moral Philosophy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asian Philosophy	6. 最初と最後の頁 15-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09552367.2022.2151088	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 志野好伸	4. 巻 4
2. 論文標題 張東孫にとっての中国哲学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Minerva 明治大学文学部哲学専攻論集	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Lam Wing Keung	4. 巻 1-2
2. 論文標題 Bodily Pathos and Virtue Ethics: On Miki Kiyoshi 's Philosophy of Imagination	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal of East Asian Philosophy	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s43493-021-00009-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浅見洋	4. 巻 18
2. 論文標題 日本における「看護の哲学」の展開と現状 --看護大学の哲学教員として--	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本哲学史研究	6. 最初と最後の頁 118-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅見洋、中嶋優太	4. 巻 18
2. 論文標題 哲学論文集 首巻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西田哲学会年報	6. 最初と最後の頁 124-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 3
2. 論文標題 蔡元培の哲学観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Minerva 明治大学文学部哲学専攻論集	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 73
2. 論文標題 張東孫の生命哲学批判	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本中國學會報	6. 最初と最後の頁 31-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinobu Shino	4. 巻 58
2. 論文標題 Chinese Philosophy for Logicians: The Case of Jin Yuelin and Shen Youding	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Oriens Extremus	6. 最初と最後の頁 251-273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 2
2. 論文標題 道 仁斎と徂徠の間	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Minerva明治大学文学部哲学専攻論集	6. 最初と最後の頁 9-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 2
2. 論文標題 La voie : entre Jnsai et Sorai	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Minerva明治大学文学部哲学専攻論集	6. 最初と最後の頁 37-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 35
2. 論文標題 論理学者にとっての中国哲学 金岳霖、沈有鼎を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中国 社会と文化	6. 最初と最後の頁 67-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 2
2. 論文標題 Is Han Scholarship Science?: The Contrapositioning of Han Scholarship and Sung Scholarship in Modern China	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Acta Asiatica	6. 最初と最後の頁 91-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 477
2. 論文標題 書評：弱い普遍性の探求：許紀霖著、中島隆博・王前監訳、及川淳子・徐行・藤井嘉章訳、『普遍的価値を求める：中国現代思想の新潮流』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東方	6. 最初と最後の頁 32-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 志野好伸	4. 巻 2
2. 論文標題 翻訳：李臻文（ジョゼフ・リー）「雨傘運動における媚態、意気地、諦め 「いき」の内包的構造を通して、運動における香港人と政府のふるまいを検討する」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Minerva明治大学文学部哲学専攻論集	6. 最初と最後の頁 53-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 16件）

1. 発表者名 浅見洋
2. 発表標題 今世紀における西田哲学研究の変遷とその現在
3. 学会等名 北陸宗教文化学会閉会記念講演
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Lam Wing Keung
2. 発表標題 On Nishida Kitaro's Moral Feeling: A Confucian Perspective
3. 学会等名 International Conference on Feeling in Japanese philosophy (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Lam Wing Keung
2. 発表標題 Nishida Kitaro and Shaftesbury: An Encounter of Moral Sentimentalism
3. 学会等名 The 6th Conference of European Network of Japanese Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅見洋
2. 発表標題 日本における「看護の哲学」の展開と現在 看護大学の哲学
3. 学会等名 第39回日本哲学史フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 張東孫にとっての中国哲学
3. 学会等名 東アジア哲学レクチャーシリーズ 第1回
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Lam Wing Keung
2. 発表標題 Rereading Nishida Kitaro as a New Confucian: With a Focus on His Early Moral Philosophy
3. 学会等名 「東アジアにおける哲学の生成と発展 間文化の視点から」第六回共同研究会 (国際学会)
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 林永強
2. 発表標題 日常とは何か：西田幾多郎の1945年の日記から考える
3. 学会等名 「市民向け公開シンポジウム：大震災と復興の行方」（国際学会）
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 Lam Wing Keung
2. 発表標題 Nishida Kitaro 's Ethics and Classical Confucianism: With a Focus on the Book of Odes
3. 学会等名 The 5th Annual Meeting of International Association of Japanese Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 西田幾多郎の「物」をめぐる思想 源了圓論文を承けて
3. 学会等名 「東アジアにおける哲学の生成と発展 間文化の視点から」第六回共同研究会（国際学会）
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 Lam Wing Keung
2. 発表標題 Nishida Kitaro as a classical Confucian moral philosopher: Reconfiguring " the actualization of personality "
3. 学会等名 International Society of East Asian Philosophy, 2019 Conference, Meiji University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 發表者名 Lam Wing Keung
2. 發表標題 Nishida Kitaro as a New Confucian
3. 学会等名 「東亞人文社會科學研究的新地平線 人物、文化、思想、海洋與經濟的交匯」中國文化大學東亞人文社會研究院 (國際学会)
4. 發表年 2019年

1. 發表者名 Lam Wing Keung
2. 發表標題 Bodily pathos and virtue ethics: Revisiting Miki Kiyoshi 's logic of imagination
3. 学会等名 International Conference on " East Asian Ethics: Will and Conduct ", Department of Chinese Literature, National Taiwan University (國際学会)
4. 發表年 2019年

1. 發表者名 Lam Wing Keung
2. 發表標題 Hermeneutics of betweenness: On Watsuji Tetsuro's fudo
3. 学会等名 Department of Asian and International Studies, City University of Hong Kong (招待講演)
4. 發表年 2019年

1. 發表者名 林永強
2. 發表標題 日語與哲學：以「こと」(事)一詞為軸心
3. 学会等名 國立臺灣大學日本研究中心 (招待講演)
4. 發表年 2019年

1. 發表者名 林永強
2. 發表標題 情感與身體：三木清的行為哲學
3. 学会等名 國立臺灣大學東亞系（招待講演）
4. 發表年 2019年

1. 發表者名 Lam Wing Keung
2. 發表標題 Sentimental ethics: On Miki Kiyoshi ' s philosophy of action
3. 学会等名 The Fourth International Conference of International Association of Japanese Philosophy, University of Hawai ' i (國際学会)
4. 發表年 2019年

1. 發表者名 Shino Yoshinobu
2. 發表標題 Interpretations on Mencius in the 1930s: I. A. Richards, Fung Yu-lan, and Abe Yoshishige
3. 学会等名 東亞視野下的邏輯(Logic in East Asian Perspective), National Chengchi University (國際学会)
4. 發表年 2019年

1. 發表者名 Shino Yoshinobu
2. 發表標題 Interpretations on Mencius in the 1930s: I. A. Richards, Fung Yu-lan, and Abe Yoshishige
3. 学会等名 International Conference on " East Asian Ethics: Will and Conduct ", Department of Chinese Literature, National Taiwan University (國際学会)
4. 發表年 2019年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 漢学は科学か？ 近代中国における漢学と宋学の対立軸について
3. 学会等名 第64回国際東方学会議、東京、日本教育会館（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 論理学者にとっての中国哲学 金岳霖、沈有鼎を中心に
3. 学会等名 中国社会科学学会シンポジウム「世界哲学としての中国哲学」、東京大学本郷キャンパス
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志野好伸
2. 発表標題 光自那裡来：西光万吉的政治思想
3. 学会等名 第六回中日哲学フォーラム、中山大学、広州（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Yoshinobu
2. 発表標題 La Voie : entre Jinsai et Sorai
3. 学会等名 Colloque : Les concepts de la philosophie japonaise, IREPH, Paris X, Nanterre（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shino Yoshinobu
2. 発表標題 Lin Maosheng's Philosophy of Education and its Background
3. 学会等名 The First International Conference of International Society of East Asian Philosophy, Meiji University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅見洋
2. 発表標題 西田幾多郎の親鸞理解 「知と愛」について
3. 学会等名 西田幾多郎記念哲学館、かほく市
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 Lam Wing Keung著、Matsumaru, Hisao, Arisaka Yoko and Lucy Cristina Schultz共編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 240
3. 書名 Tetsugaku Companion to Nishida Kitaro	

1. 著者名 浅見洋共編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 前田印刷株式会社	5. 総ページ数 150
3. 書名 西田幾多郎未公開ノート類研究資料化 報告6	

1. 著者名 廖欽彬、伊東貴之、河合一樹、山村奨編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 886
3. 書名 東アジア哲学の生成と展開：間文化の視点から	

1. 著者名 浅見洋共編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 前田印刷株式会社	5. 総ページ数 122
3. 書名 西田幾多郎未公開ノート類研究資料化 報告5	

1. 著者名 Yoshinobu Shino等	4. 発行年 2022年
2. 出版社 College de France	5. 総ページ数 510
3. 書名 L'action d'écrire et le corps: Comment écrire de Lu Xun	

1. 著者名 志野好伸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 漢学とは何か 漢唐および清中後期の学術世界	

1. 著者名 志野好伸等	4. 発行年 2021年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 416
3. 書名 何処から何処へ 現象学の異境的展開	

1. 著者名 浅見洋編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 450
3. 書名 西田幾多郎全集 別巻	

1. 著者名 浅見洋共編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 前田印刷株式会社	5. 総ページ数 120
3. 書名 西田幾多郎未公開ノート研究資料化 報告4	

1. 著者名 藤田正勝、林永強編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臺大出版中心	5. 総ページ数 291
3. 書名 近代日本哲学と東アジア	

1. 著者名 伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留責任編集、志野好伸等共著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ちくま新書	5. 総ページ数 280
3. 書名 世界哲学史 3 中世 超越と普遍に向けて	

1. 著者名 浅見洋、中嶋優太、井上智恵子編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 前田印刷株式会社出版部	5. 総ページ数 130
3. 書名 西田幾多郎未公開ノートル類研究資料 化 報告 3 2019	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浅見 洋 (Asami Hiroshi) (00132598)	石川県立看護大学・看護学部・名誉教授 (23302)	
研究分担者	志野 好伸 (Shino Yoshinobu) (50345237)	明治大学・文学部・専任教授 (32682)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------